

## 1 学校教育目標

人権尊重の精神を大切にし、国民としての自覚をもち、世界に視野を広げ、社会の進歩と発展に役立つことのできる知・徳・体の調和をとれた児童を育成する。

○考える子                      ○助け合う子                      ○元気な子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	児童が通ってよかった、保護者が通わせてよかった、教職員が勤めてよかった、地域の方々が誇りに思う学校 ○確かな学力を活かし自ら考え表現する児童を育てる学校 ○PDCA（計画・実践・評価・改善）を実践し効果的な教育活動を行う学校 ○保護者や地域と連携して環境や人材を活かし、児童が意欲をもって学ぶ学校
○児童・生徒像	自分のよさに気付き、自信をもって伸びていく児童 ○知（む すぶ知恵）基礎基本を身に付け、みんなと学び合う学校 ○徳（つ なぐ手と手）自他を認め合い思いやりと社会性のある子 ○体（技 量と体力）心身ともに健康で運動能力・体力を伸ばす児童
○教師像	向上心と責任感のある教師 ○常に学ぶ姿勢をもって授業力を高めていく教師 ○一人一人の児童の実態を把握し、児童のもっている力を伸ばすために実践する教師 ○職務に誇りをもち、教科指導の専門力と学級・専科経営力の向上に努める教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### [学校の現状]

#### 〈児童〉

とても人懐っこくて、明るく素直である。高学年でも親しみやすい児童が多い。生活の規律を守りながら集団行動をきちんととることができる。社会を生きていく上で一番の基本となる挨拶や返事を習慣付けて、教育活動の様々な場面で心を育て自己肯定感を高めることが重要である。

#### 〈教職員〉

ベテランから若手までの全教職員が児童理解に努め、積極的に行動する雰囲気の中で意欲的に授業を行い、学校行事を遂行している。教職員全員で知恵を出し合い、児童の確かな学力や生きる力をつけさせようと目的意識をもって取り組む体制が確立されている。経験値や異動に伴う指導力の差が大きくなるようにするため、今後もOJTや研修を通して人材育成を行っていく。管理職も常に学び続けている。

#### 〈保護者・地域〉

PTA役員や地域の方々が学校に協力的である。PTAは、地域パトロールやかっぱフェスタ等をはじめ様々な企画を児童のために運営し、開かれた学校づくり協議会は、学校と連携し土曜事業を活発に展開してきた。図書ボランティアは図書支援員とも連携し、多彩な読書推進活動を繰り広げている。今後、家庭の実態に応じて、関係諸機関とも連携しながら、学校教育へのさらなる理解と協力を求める。そして、SNS等の課題に関しては、学校だけでは解決しきれない事案が起こっている。常に情報を共有し、今まで以上に家庭・地域・学校が連携しながら児童を育てていく。

## 〔前年度の成果と課題〕

### 〈学力向上アクションプラン〉

7月の区学力調査通過率の目標を70%としたが、国語65.1算数63.4だった。コロナ禍の影響もあるが、2月の予備調査において、目標まであと約5%であった。再び目標達成のため、令和3年度に向けては+10%の児童を目標値通過させる。今後も確かな学級経営を基盤とした学習活動を柱にして学力向上を図っていく。学習意欲に関しては、「授業がわかるようになった」児童が88.5%という高い数値だった。「勉強が好きになってきた」児童も77.6%で、4月と比較してプラス10.4%だった。読書に関しては+20%の74.3%。学習意欲を継続して高めていきたい。校長室補充の成果が数値的に確認できるようになってきたため、校長室で行ってきた補充を少しずつ学年や学級へ移行していく。今年度は、研究協議会の体制をつくれなため、日常の授業改善、つまずきのある児童への的確な指導と支援等を1年間実施していく。中止となった区学力調査を7月に実施し、前学年のつまずき補充を9月まで継続させる。そして、10月からは現学年の補充を計画的に実施していく。放課後の補充学習のめあてをより明確にし、そだち指導や校長室での補充は個の課題により応じた個別指導を実践していく。

### 〈人権尊重と思いやりの心の育成を通したいじめ防止〉

あいさつ運動が定期的に行われ年々あいさつが上手になってきている。アンケート結果では、88.9%の児童が「あいさつが上手になってきた」と答えている。6学年有志が卒業するまであいさつ運動を継続させ、よい伝統を残してくれた。あいさつ運動の風土をより高めるとともに、まだ個人差があるため、あいさつ運動をさらに継続させる必要がある。また、教職員の勤務時間を変更し、朝のあいさつ運動には、管理職に加え、看護当番を中心に教職員全員で取り組んでいく。いじめ防止プロジェクトは2月に実施し、3年連続で継続させている。家庭・地域・学校の連携を今後も強化していく。さらに児童・教職員が人権感覚を豊かにすることがコミュニケーション能力を伸ばすための核である。「できるようになったことが増えた」児童が、87.4%。「自分以外の人に役立つことが増えた」児童が、77.2%だった。今後、この数値を1%でも増やしていくため、一人一人が自尊感情をしっかりともち、自己肯定感を高めていくことによって、今以上の思いやりの心を育てていく。現在、特別支援教育の充実を図っているが、OJTの組織体制や研修によって具現化させ、より深い児童理解に努めていく。結果的に個に応じた支援の充実につなげる。

### 〈健康な体づくりと体力向上〉

平成30年度から学校経営計画の柱の一つとしている。体の健康なしに学力向上はありえない。毎日元気に登校し学習や生活に取り組むことで、児童のプラスの変容が見られるはずである。また、運動能力においては、反復横跳び・立ち幅跳び・ソフトボール投げに課題があり、女子より男子の方の体力合計点が低い。前年度比では、女子が+3.5点、男子が-2点だった。「外で遊ぶことが増えたと思う」児童は、81.6%であり、休み時間や放課後の遊び・保健体育の授業を通して、体力の向上を図らなければならない。病気欠席者の数の変容を1つの指標とし、経年変化をとらえながら健康な体づくりに関する効果検証を行ってきた。平成30年度までは3年連続病気欠席者数が減少してきたが、令和元年度は数値的に横ばい状態となった。今後も欠席者を増やさないことに留意しながら、今年度から体力調査の数値を活用する。足立区でも重要視しているソフトボール投げを取り上げ、抽出学年の再調査結果から体力向上の効果検証を行いたい。

1年間の成果を確認する手法として、校長アンケートがよりの確なものとなってきた。「知」・「徳」・「体」の分野別のアンケートを実施したい。「知」は学習意欲に関する項目、「徳」は自己肯定感に関わる項目、「体」は休み時間の外遊びや体力向上アタック週間への取り組みを中心に児童の変容を確認する。1年間の変容を捉えるため、8月と2月の二回アンケートを実施し、結果を分析する。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	人権尊重と思いやりの心の育成を通したいじめ防止	○	○	○	○	○
3	健康な体づくりと体力向上	○	○	○	○	○
4						

## 5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題			達成度 ◎○△●		
7月区調査 目標値通過率70%		2月校内予備調査 目標値通過率70%	7月区調査通過率60.5% 2月予備調査通過率70.5%	7月の区調査では目標を9.5%下回った。2月は目標を0.5%上回った。引き続き、学力の向上・定着を図る。学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照。			○		
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	思考力を高めるための授業改善	全教職員	6月～ 3月	教科指導専門員及び管理職の指導・助言による若手教員の安定した授業力と全学級における検討場面や話し合いの充実	・毎日の授業観察  ・校内研究授業	国語は校内研究(27～29年度)での取り組みを活かす。算数は校内研究(30年度～)の目指す児童像「自分の考えをもてる子」を育成するための授業をつくっていく。	・管理職、教科指導専門員、学年主任を中心に授業観察及び指導・助言を継続した。若手を中心に着実に授業力を向上させた。 ・講師を招聘しての研究授業を実施できなかったが、全学年授業を見合う雰囲気構築できた。	・学力定着指導員を配置してもらっているため、指導・助言を充実させることができた。次年度はもっと授業を見合えるシステムを構築。 ・新学習指導要領の柱である「児童が主体になる」授業改善を常に目指し、対話の多い学びにする。	○

2 新規	学校図書館の活用	全学年	6月～ 3月	担任、図書支援員、図書ボランティアが協働しながら豊かな言語感覚を養う図書館活用を実践していく。既に行われている取り組みについては取捨選択や内容改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年で目標達成児童を周知。</li> <li>目標達成児童へ賞状を作成し表彰。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の目標冊数を学年で設定(昨年度は全学年50冊)</li> <li>高学年が調べる学習コンクールへ参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学年に関しては8割以上の児童が目標達成。</li> <li>2～6学年は目標達成率が約70%。</li> <li>読んだのに記録を残せない児童あり。</li> </ul>	令和3年度から賞状作成を行わず、各学年で目標達成者を賞賛するとともに目標未達成児童への励ましを強化し読書の楽しさを味わわせる。	○
3 継続	朝の国語学習	全学年	6月～ 3月	担任が、言語事項を中心に国語の授業を行う。低学年はMIM学習を中心に実施。中学年は国語辞典や漢字辞典を活用する練習を必須とする。必要に応じて学習支援員を活用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語単元テストの言語事項結果を確認</li> <li>辞典ひきの確認をし、つまずきのある児童へ個別指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全児童の8割が毎回の単元テストで正答率8割以上</li> <li>各担任への聴き取り結果から児童を抽出し個別補充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1～4学年は朝の国語学習を効果的に行うことができた。</li> <li>高学年は課題残る。</li> <li>国語辞典や漢字辞典の活用継続的に取り組むことができた。</li> </ul>	2月の予備調査結果から、特に1・2学年の国語学習の成果を得た。高学年は結果に結びつかない部分はあるが、朝の国語学習の時間を継続して設定する。	○
4 継続	補充教室及びそだち指導	全学年の抽出児童 国語 算数	毎週木 3学年 14:35 4～6 学年 15:20 40分  そだち 指導は 週4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員体制で、国語・算数それぞれのつまずき部分を補充。個別あるいは少人数指導を原則で行う。一人一人の課題に応じた教材を準備し効果的な補充を実現させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月の校内区調査において、抽出児童の6月からの変容を見取る。</li> <li>7月調査結果を分析し、抽出児童選定の見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2月に実施する校内予備調査で目標値を通過する抽出児童70%以上</li> <li>調査結果分析を担当と管理職が共有し効果的なそだち指導や校長室補充へつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>抽出児童で目標値を通過できた児童は27%だった。70%という目標が高すぎるため、令和3年度の目標を各学年あたり5名目標値を通過させることに変更する。全体的に捉えると、目標値通過率5～10%アップと設定する。</li> <li>そだち指導を受けている児童は全員正答率アップ。5割の児童が区学力調査目標値を通過している。補充教室と重複しないように今後も調整をしっかりと行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度から7月までに前学年の補充、夏季休業日から現学年の補充実施を計画していたが、2か月間の休校、3週間の分散登校のため、実現できなかった。令和3年度はサマースクールから現学年の補充をスタートさせる。校長室補充と連携させながら、より効果的な補充教室を推進する。</li> <li>そだち指導の目標を区学力調査目標値通過に焦点化し、8割の児童が達成することを目指す。</li> </ul>	△

5 継続	校長室補充	全学年の 抽出児童	6月～ 3月	<p>管理職・学力定着指導員・学習ボランティアが、学級や学年でつまずきを十分に解消できなかった児童のために補充を行う</p> <p>そだち指導員とも情報を共有し、個別指導の内容が重複しないようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>抽出児童に関しては担任と管理職がしっかりと共通理解を図る。</li> <li>7月の校内区調査の結果を分析し、抽出児童に関する学習の変容を確認する。</li> <li>区学力調査の結果をそだち指導員と共有。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2月に実施する校内予備調査で目標値を通過する抽出児童50%以上</li> <li>調査結果分析や日常の学習状況を担任と管理職が共有し、抽出児童選定の見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3クールまでは計画通り正答率30%未満の児童を対象に算数のつまずきを補充。主に前学年の内容が中心。</li> <li>校内区調査の結果や6学年のつまずきの大きさに応じて、4クール目から正答率30～70%未満の児童に補充対象を変更。人数が全学年10人以上となったため、理科室へ変更。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正答率30%未満の児童の正答率を約15%引き上げることができた。目標値を通過できなくても正答率を上げていくことに尽力する。</li> <li>6学年の補充を12月に引き続き、2月下旬と3月上旬に実施できた。次年度は7月までに前学年の補充を終了し、サマースクールあるいは9月から現学年の補充を実施する。</li> </ul>	○
6 新規	ICTの活用	全教職員	6月～ 3月	<p>教員用タブレットを媒体に、デジタル教科書の活用やプログラミング教育の推進を積極的に展開する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の授業観察や週案簿でICT機器の活用状況を確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一日の授業の中で一回以上の活用</li> <li>ICT支援員と連携し、参考になる活用例を常に共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員は毎日タブレットを活用し、授業の中では日常化。</li> <li>プログラミング教育推進のため、活用方法の工夫を全教員で学び合っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は、ICT担当者を2名に増やし、一人一台のシステムに対応。同時にプログラミング教育の内容を充実させるためのリーダーとして活用。</li> </ul>	○

重点的な取組事項－２		人権尊重と思いやりの心の育成を通したいじめ防止			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気なあいさつと優しい言葉がけ</li> <li>・自己肯定感の向上</li> </ul>		2月に行う校長アンケート結果 肯定的意見の割合が 全体の85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気なあいさつ91.3%</li> <li>・できることが増えた91.3%</li> <li>・人の役に立つ75.8%</li> </ul>	「あいさつ」と「できることが増えた」は目標達成。 人の役に立つことは次年度の目標を80%にする。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
あいさつの習慣化	2月に行った校長アンケート結果 ・「あいさつが上手になったと思う」という肯定的意見の割合が、80%以上 ・8月との比較+5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動の継続・強化 児童会、PTA、あいさつボランティア6年有志との連携</li> <li>・看護当番を中心に朝のあいさつ指導を継続的に実施</li> <li>・アンケート調査を2回実施し、1年間の変容を教職員・家庭・地域へ周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいさつが上手になったと思う」児童が9割を超えた。8月と比較して9.5%アップしている。コロナ禍に負けず、あいさつができたことの価値は高いと考える。</li> <li>・代表委員があいさつ週間が終了した後も自主的にあいさつ運動を継続したことも価値が高い。</li> </ul>	1月の緊急事態宣言の再発令によって、ややあいさつの声が小さくなってきたことが気になる。令和3年度4月から新たな気持ちであいさつの上手な六木小を目指す。	◎
自己肯定感の育成	2月に行った校長アンケート結果 ・「できるようになったと思う」という肯定的意見の割合が、全体の80%以上 ・「自分以外の人の役に立つことが増えたと思う」という肯定的意見の割合が、全体の80%以上 ・8月との比較+5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や学年、学級において全児童が役割をもつ</li> <li>・人権教育をテーマにした道徳授業地区公開講座を実施</li> <li>・学級活動や学年活動、縦割り班活動の充実</li> <li>・自己評価を2回実施し、児童の変容を教職員で共有</li> <li>・自己肯定感が極めて低い児童の原因背景を考え、SCやSSWと連携しながら具体的手立てを実践</li> <li>・児童の実態把握のためのQU検査を活用した具体的手立ての実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「できるようになったと思う」児童が9割を超えた。8月と比較して7.4%アップしている。コロナ禍で教育活動が制限されている中、自己肯定感を高めることができた。</li> <li>・「役に立つことができたと思う」項目では目標を達成できなかったが、8月との比較では7.2%アップし、目標を達成できた。</li> <li>・個別の支援を必要とする児童に関しては、SCやSSWと連携しながら組織的に対応できた。様々な対応策を取り、不登校児童0を実現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍に影響されることなく、自己肯定感を高められていることは教育的価値が高いと評価できる。令和3年度は4月スタートに向けて最善の準備をしたい。</li> <li>・縦割り班活動やクラブ活動を徐々に再開し、誰かの役に立つ機会を増やしていく。</li> <li>・特別な支援を必要とする児童に関しては、今後もチームとして対応していく。</li> </ul>	◎

いじめの早期解決	いじめの早期解決 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめは、いつでもどこでも誰にも起こり得るという認識の向上</li> <li>・大人の連携を深めるため、家庭・地域・学校が三者一体となった「いじめ防止プロジェクト」の継続</li> <li>・保健や道徳授業を通したソーシャルスキルの育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめにつながりそうな事案に関しては、常に学校がチームとなって対応した。</li> <li>・コロナ禍のため、実際に集合してのプロジェクトは実施できず。大人の連携は絶対に必要なこととして、これからも情報共有していく。</li> <li>・全体的にはソーシャルディスタンスを身に付けることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別では2件課題が残る結果となった。複雑な背景があったとしても、学校としてできることを最大限行っていく。</li> <li>・ソーシャルディスタンスに加えて、言葉遣いや声の大きさも考えられる児童を育てる。</li> </ul>	○
教師の人権感覚を高める	達成状況を自己評価 100%にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権プログラムを活用した6月に実施</li> <li>・「教師のための人権感覚チェック表」で自己点検実施、特に言葉遣いの振り返り</li> <li>・毎朝の健康観察重視</li> <li>・特別支援教育に関する理解を深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉遣いの課題が少しあったが、指導と自分の振り返りによって改善された。また、体罰0を実現できている。</li> <li>・特別支援教育に関する理解には教員の個人差がまだある。多様性を認め合う視点をもっともたせ、児童の対応技術を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員組織は年度ごとに替わるため、転入者や初任者を中心に人権感覚の重要性を伝える</li> <li>・コロナ禍のため、毎朝の健康観察が丁寧にできた。次年度も継続させていく。</li> </ul>	◎

重点的な取組事項－3		健康な体づくりと体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力・運動能力調査における体力合計点 前年度比+2点</li> <li>・反復横跳び、立ち幅跳び、 ソフトボール投げの向上</li> </ul>		ソフトボール投げの向上 抽出学年による校内再調査 +1m以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍による制限があったため、全校的な体力調査を実施できず。</li> <li>・2学年において+1.5mを達成。</li> </ul>	・各学年工夫しながら体力調査を行っていた。次年度も全校一斉方式より各学年や各学級で工夫して実施。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
休み時間や放課後の外遊び奨励	2月に行うアンケート ・「外で遊ぶことが増えたと思う」 全体の80%以上 ・8月との比較+5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間に担任も一緒に校庭へ出る習慣化</li> <li>・雨天時の場合の体育館使用割り当て</li> <li>・きつぱれっとと連携した投げる遊びの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均6～7名の教員が校庭で児童との時間を共有。</li> <li>・雨天時の場合の体育館も計画通りに遊んでいた。</li> <li>・きつぱれっとの休止期間が長く予定ほど連携できなかった。</li> </ul>	・コロナ禍による休校や分散登校があったため、校庭や体育館で力いっぱい走る時間は心身ともに健康づくりに大きく貢献した。	◎
縄跳びの アタック週間	個人カードによる 目標達成70%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人カードを活用</li> <li>・アタック期間を設定</li> <li>・縄跳びは、短縄で個人目標</li> <li>・コロナウイルス感染拡大状況によっては長縄跳びにも取り組ませる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短縄アタックを実施。長縄アタックは中止。</li> <li>・全校一斉から学級ごとのマラソンアタックを実施。</li> <li>・短縄は休み時間に行う児童もあり。意欲が高まった。</li> </ul>	・長縄はその特性のためにあきらめたが、方法や時間を工夫しながら短縄とマラソンアタックを実施した意義を高く評価している。	◎
保健体育授業の充実	2月に行うアンケート ・「健康について考えるようになった」 全体の80%以上 ・「学校を休まず元気に過ごすようになった」 全体の80%以上 ・2項目とも8月との比較+5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭と連携し、心身ともに成長するための保健指導の充実</li> <li>・歯磨きタイムの完全実施</li> <li>・オリパラ教育の充実</li> <li>・体力・運動能力の校内再調査の実施（抽出学年のみ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月に行ったアンケートにおいて健康について考えている児童が9割近くおり、コロナ禍におけるプラス要素となった。</li> <li>・歯磨きタイムは実施を中止。</li> <li>・オリパラ教育をあまり推進できず。</li> <li>・体力向上を数値で証明できた。</li> <li>・2月に行ったアンケートにおいて健康について考えている児童は88.6%だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月における運動意欲が70%まで下がっていた現状から、2月は6.6%アップした。</li> <li>・次年度も体力・健康の向上を目指した目標を設定する。目標を大きくクリアしているため、視点を改めて目標設定する。</li> </ul>	◎

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 重点的な取り組み事項—1 学力向上アクションプラン

##### 【課題】

- ・目標値通過率70%を目指していたが、9月の校内調査では64.3%だった。2月の予備調査通過率70%を達成した。しかし、3学年算数の通過率は65%、5学年算数の通過率は63.9%だった。
- ・研究授業は実施できなかったため、学年で交換授業を行ったり、学力定着指導員や教科指導専門員と連携した授業観察を行ったりしながら、まとめ・振り返りに重点を置いた授業を行った。しかし、新学習指導要領の趣旨を十分に理解した授業を積み重ねることができなかった。
- ・補充教室の効果がまだ少ない。残された感を与えることなく、できるようになった喜びを感じられる補充教室を実施する必要がある。

##### 【対策】

- ・3学年と5学年の算数を中心に3月・4月の補充を行う。4月の区学力調査の結果を分析し、7月までに前学年の補充を終了させる。夏季休業日から現学年の補充に取り組んでいく。
- ・児童が主体的に取り組む授業を目指し、毎時間の振り返りを積み重ねていく。また、できるようになる喜びを感じられる補充を実現していく。

#### 重点的な取り組み事項—2 人権尊重と思いやりの心の育成を通したいじめ防止

- ・あいさつの習慣化は予想以上に定着した。6・7月当初は、ほとんど聞こえなかったあいさつの声が次第に大きくなった。さらに、あいさつ週間後も代表委員が自発的にあいさつ運動を継続させ、あいさつがより定着した。賞状作成のアイデアも出てきて、昼の放送や各教室での表彰を行った。次年度も、あいさつ週間だけでなく、自発的な行動を目指させたい。
- ・コロナ禍で不安視していた「他者意識」を80%以上の児童がしっかりもっていた。これからも相手のことを考えながら行動できる児童を増やしていく。
- ・「できるようになったことが増えた」と思う児童も80%以上だった。今後も自己肯定感を高められるように教育活動を推進していく。
- ・6学年においては多少の課題があったが、全体的にいじめを早期解決している。いじめの芽につながる事象が起こるときは、絶対に自分自身の肯定感が低くなっている。人の役に立つ、プラスに目を向ける、ありがとうという感謝の気持ちをもたせる等のきっかけをつくりながら、肯定的な人間関係づくりを考えさせていく。
- ・コロナ禍において、例年とは違った人権的な学びがあった。感染者や医療従事者を差別しない心をもつことである。今後も、差別的な考え方や意見は、プラスのものを生んでいかないことを学ばせる。

#### 重点的な取り組み事項—3 健康な体づくりと体力向上

- ・体力向上の指標として、ソフトボール投げ+1mを掲げたが、全校規模での体力調査が中止となったため、2学年抽出で行った。10月と12月との比較で+1.5mを達成した。次年度は、全学年において+1mを達成したい。
- ・感染を恐れて校庭で元気に遊べない児童も多数いたが、11月以降は休み時間も放課後も元気に体を動かしている。クラスごとの体育館使用計画も運用しながら運動量の確保に努めることができた。短縄跳びアタック等、実現可能なものを実施したが、次年度以降も運動する機会の確保に全力を尽くしたい。
- ・ゲーム等において制限はあるものの体育学習を順調に進めることができた。手洗いやマスク着用、ソーシャルディスタンス等、保健衛生的な知識を日常的に学ぶことができた。
- ・9月以降の欠席者が減り、学校を休まない傾向が強まった。不登校児童は0だが、不登校傾向の強い児童は在籍しているため、欠席が長期化・長時間化しないように学校がチームとなって取り組んでいく。

## (2) 保護者や地域へのメッセージ

4月・5月の休校や6月の分散登校では、家庭の負担がかなり重くなったことが予想されます。昨年度の3月から各ご家庭で児童の学びを支えていただいたことに感謝申し上げます。PTA活動も開かれた活動もほとんど0となりましたが、顔を合わせるたびに共通理解を深めていただいたことにも重ねて御礼申し上げます。特に、10月に実施した体育学習発表会においては、PTA役員が自発的に椅子拭きや安全管理を行っていただき、とても助かりました。

次年度もかなり制約がかかり、できないことも多いかもしれません。その中で、実施可能なアイデアを出し合い、児童にプラスに働きかけられる行事を計画していきたいと考えています。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## (3) その他（学校教育活動全般について）

新学習指導要領の全面実施がスタートした。今までの学力観と大きく違う点は、「学びに向かう力や人間性、主体的に取り組む態度」を評価しているところである。テストの点数だけでは測れない学力である。今までも話し合いながら意見を伝え合いながら学びを進めてきたが、今後その学び合いの質を深めていかなければならない。本校では、基礎・基本の定着を継続させながら、全員が自分の考えをもちながら学習に取り組む授業を展開していく。自分の考えをしっかりとてれば、話し合いや検討場面の充実につながる。毎時間よりよい考えにまとまっていく経験を積み重ね、学習内容に興味や意欲がより湧いてくることによって、主体的に学習に取り組むことが増えていくと考える。